



J A と園振協合同で若手花き生産者向け研修会を開催



1月23日、南種子支所において、JAと園芸振興協議会種子島支部合同で、レザーリーフファンの若手・新規生産者向け研修会を開催しました。

南種子地区では新規で栽培に取り組む生産者が増えており、研修を通じて基礎知識の習得だけでなく、若手生産者同士や先輩農家との交流といったネットワークの構築も目的としています。

種子島産のレザーリーフファンは市場からの評価も高く引き合いが強いものの、これまで産地を作ってきた生産者が高齢となり面積や生産量が減っていることが課題であり、若手生産者へ寄せる期待は大きなものとなっています。

JAでは今後も部会や園芸振興協議会と連携し、若手生産者育成の取り組みを強化していきます。

スナップエンドウ出荷ピーク

JA管内の集荷場では、スナップエンドウの出荷がピークを迎えています。

連日、集荷されたスナップエンドウ約5トンを作業員が手作業で選果し、くみあい食品を通じて大型スーパーなどで販売されています。

今期は、播種期の高温により例年より播種期を遅らせ、生育は全体的に良好ですが、1月の寒波で一部アラレ被害も見られます。

出荷は4月中旬まで続き、生産者141人、面積21畝で約315トンを見込んでおります。



ポンカン出荷終了

JA管内で12月から始まったポンカンの出荷が1月上旬で終了しました。

令和5年度産は、種子島地区1.3畝、屋久島地区20畝で作付。台風6号の襲来による落果、傷果等の影響を受け出荷量は65トンとなりましたが、糖度は10.3度と品質良好なぽんかんに仕上がりました。

主な出荷先は、くみあい食品・ふるさと便・山形屋・イオンなどで安定して高品質のポンカンを出荷することができました。

